

令和7年9月16日

令和7年夏期における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課

1 概要

(1) 全国の発生状況

令和7年夏期(7～8月の2か月間をいう。以下同じ。)における山岳遭難は

○ 発生件数 808件 (前年対比 +148件)

○ 遭難者 917人 (前年対比 +181人)

うち死者・行方不明者

54人 (前年対比 +2人)

であった(数字は速報値)。

発生件数及び遭難者数ともに昨年に比べて増加した。

(2) 都道府県別の発生状況

山岳遭難の発生件数を都道府県別にみると、長野県が143件、次いで富山県が90件、山梨県が51件であった。

2 特徴

(1) 目的別・態様別

遭難者917人について、目的別にみると、登山が742人(80.9%)と最も多く、次いで、ハイキングが38人(4.1%)となっている。

態様別にみると、転倒が216人(23.6%)と最も多く、次いで道迷いが171人(18.6%)、病気が142人(15.5%)となっている。

(2) 年齢層別

遭難者917人のうち、60歳代が199人(21.7%)と最も多く、次いで50歳代が190人(20.7%)、70歳代が166人(18.1%)となっている。

注：％は、小数点以下第2位を四捨五入(表1～5においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。)

3 山岳遭難防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を防ぐためには、次に掲げる点に留意する必要がある。

○ 的確な登山計画と万全な装備品等の準備

気象条件や体力、技術、経験、体調等に見合った山を選択し、休憩時間を確保した余裕のある登山日程、携行する装備、食料等に配意し、安全な登山計画を立てる。

登山計画を立てるときは、滑落等の危険箇所や、トラブル発生時に途中から下山できるルート(エスケープルート)等を事前に把握する。

また、常に最新の気象情報を把握するとともに、登山予定の山の気候に合った

服装や登山靴、ヘルメット、雨具（レインウェア）、ツェルト（簡易テント）、地図（登山地図アプリを含む。）、コンパス、行動食等登山に必要な装備品や、万一遭難した際に助けを呼ぶための連絡用通信機器（携帯電話、無線機、予備バッテリー等）を準備するなど、装備を万全に整える。

GPS機能付きの携帯電話等は、自分の現在地をより速やかに救援機関に伝えることができるなど、救助要請手段として有効であるものの、多くの山岳では通話エリアが限られることやバッテリーの残量に注意する必要がある。

なお、単独登山は、トラブル発生時の対処がグループ登山に比べて困難になることが多いことを念頭に、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

○ 登山計画書・登山届の提出

登山計画書・登山届は、家族や職場等と共有しておくことにより、万一の場合の素早い捜索救助の手掛かりとなるほか、計画に不備がないか事前に確認するものであることを認識する。また、作成した登山計画書・登山届は、一緒に登山する仲間、家族や職場等と共有するとともに、登山口の登山届ポスト、インターネットや登山地図アプリを活用して都道府県警察、自治体などに提出する。

○ 道迷い防止

地図の見方やコンパスの活用方法を習得し、登山には地図やコンパス等を携行して、常に自分の位置を確認するよう心掛ける。

なお、登山地図アプリと紙の地図を併用することで、より正確な位置を把握することができるため、道迷いの防止につながる。

○ 滑落・転落防止

日頃から手入れされた登山靴やピッケル、アイゼン、ストック等の装備を登山の状況に応じて的確に使いこなすとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

また、滑落・転落するおそれがある場所を通過するときは、滑落・転落や上方からの落石に備え、必ずヘルメットを着用する。

○ 的確な状況判断

霧（ガス）や吹雪等による視界不良や体調不良時等には、道に迷ったり、冷静さを失ったりして、滑落等の危険が高まることから、「道に迷ったかも。」と思ったら、闇雲に進むことなく、今歩いて来た道（トレース）を辿り、正規の登山道まで引き返すなど、状況を的確に判断するとともに、早めに登山を中止するよう努める。

表1 概要

(夏期)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	
					発生件数(件)	構成比
発生件数(件)	533	668	738	660	808	
遭難者数(人)	597	786	809	736	917	100.0%
死者・行方不明者	46	45	61	52	54	5.9%
死者	36	42	52	48	48	5.2%
行方不明者	10	3	9	4	6	0.7%
負傷者	251	324	351	325	409	44.6%
無事救出者	300	417	397	359	454	49.5%

注:夏期とは、7～8月の2か月間をいう(以下同じ)。

発生件数等の推移

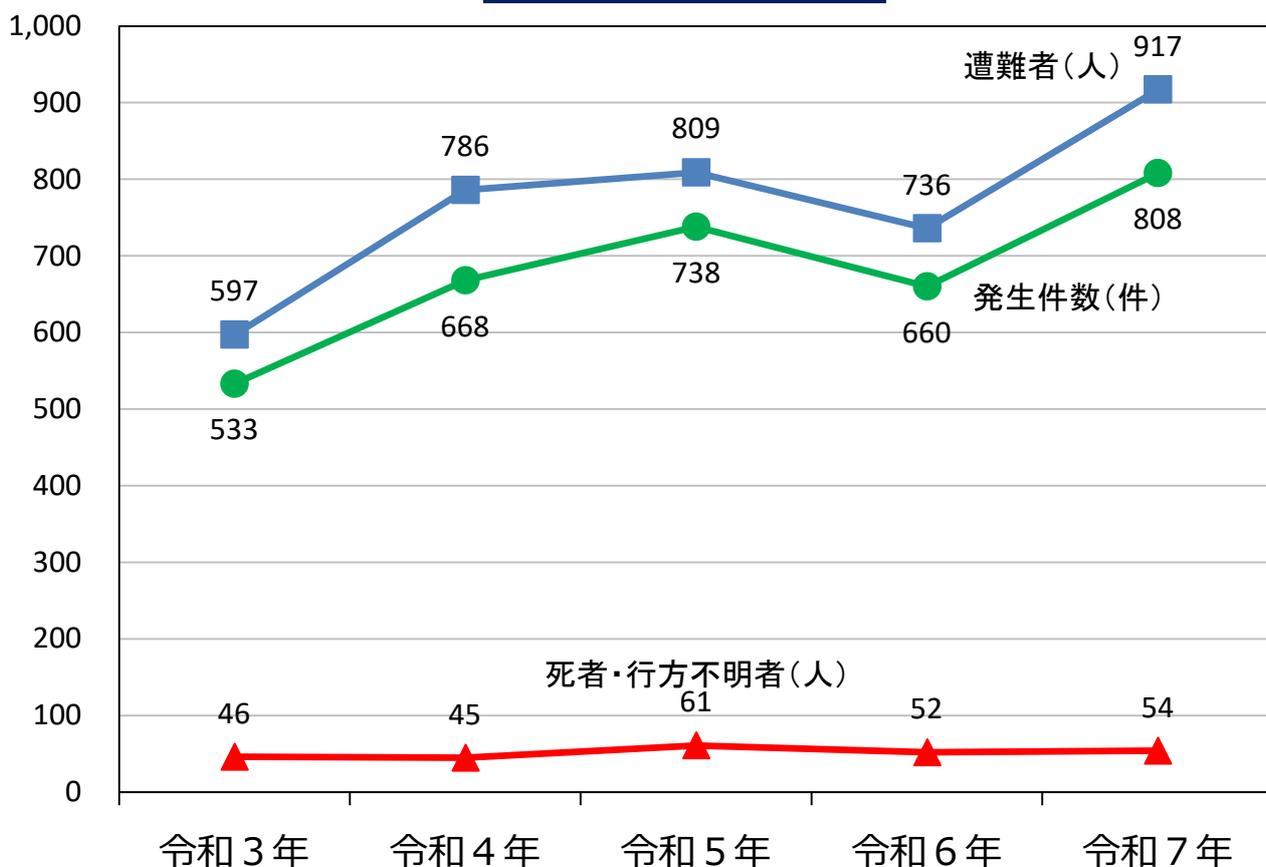


表2 都道府県別山岳遭難発生状況

(夏期)

都道府県	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
北海道	43	62	5	2	20	35
青森県	7	7	1		1	5
岩手県	8	9	1		5	3
宮城県	3	3			2	1
秋田県	2	2			2	
山形県	29	29	1	1	19	8
福島県	20	23			14	9
東京都	28	30			10	20
茨城県	8	8	1		3	4
栃木県	12	12	2	1	4	5
群馬県	42	45	1		17	27
埼玉県	11	11	1		5	5
千葉県	3	6			1	5
神奈川県	23	28			9	19
新潟県	21	26	2		12	12
山梨県	51	54	5	1	34	14
長野県	143	154	6		75	73
静岡県	48	49			23	26
富山県	90	97	9		51	37
石川県	11	11			8	3
福井県	6	6	2		2	2
岐阜県	39	49	6		13	30
愛知県	9	9			1	8
三重県	7	8	1	1	2	4
滋賀県	17	20			9	11
京都府	8	10			3	7
大阪府	6	7			4	3
兵庫県	25	30	2		15	13
奈良県	9	9			7	2
和歌山県	2	2				2
鳥取県	8	8			7	1
島根県	1	1			1	
岡山県	5	9	1			8
広島県	10	12			6	6
山口県	4	6			2	4
徳島県						
香川県						
愛媛県	5	6			1	5
高知県	4	9			3	6
福岡県	10	14			3	11
佐賀県	2	2			1	1
長崎県	2	2				2
熊本県	3	4			1	3
大分県	8	11			7	4
宮崎県	1	1			1	
鹿児島県	10	10	1		2	7
沖縄県	4	6			3	3
合計	808	917	48	6	409	454

表3 目的別山岳遭難者

(夏期)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	529	648	699	661	818	89.2%
登山	454	582	629	594	742	80.9%
ハイキング	46	32	36	38	38	4.1%
スキー登山						
沢登り	20	27	29	27	26	2.8%
岩登り	9	7	5	2	12	1.3%
山菜・茸採り	9	18	11	17	11	1.2%
その他	59	120	99	58	88	9.6%
観光	5	15	25	10	22	2.4%
作業	15	12	13	5	14	1.5%
溪流釣り	13	13	8	13	14	1.5%
写真撮影	4	4	7	6	2	0.2%
自然観賞	7	5	7		4	
山岳信仰	1	5	8	9	3	0.3%
狩猟		1		1	1	0.1%
スキー						
その他	10	16	30	12	21	2.3%
不明	4	49	1	2	7	0.8%
合計	597	786	809	736	917	100.0%

表4 態様別山岳遭難者

(夏期)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道 迷 い	179	174	180	143	171	18.6%
滑 落	99	110	106	120	126	13.7%
転 倒	121	171	190	169	216	23.6%
病 気	80	114	137	110	142	15.5%
疲 労	59	80	99	110	124	13.5%
そ の 他	59	137	97	84	138	15.0%
転 落	13	25	25	13	27	2.9%
悪 天 候	3	2	12	16	8	0.9%
野生動物襲撃	4	10	5	3	12	1.3%
落 石	5	3	10	6	13	1.4%
雪 崩						
落 雷					1	0.1%
鉄 砲 水	1	58		2	14	1.5%
有 毒 ガ ス			1			
そ の 他	20	32	26	36	49	5.3%
不 明	13	7	18	8	14	1.5%
合 計	597	786	809	736	917	100.0%

態様別山岳遭難者構成比の推移

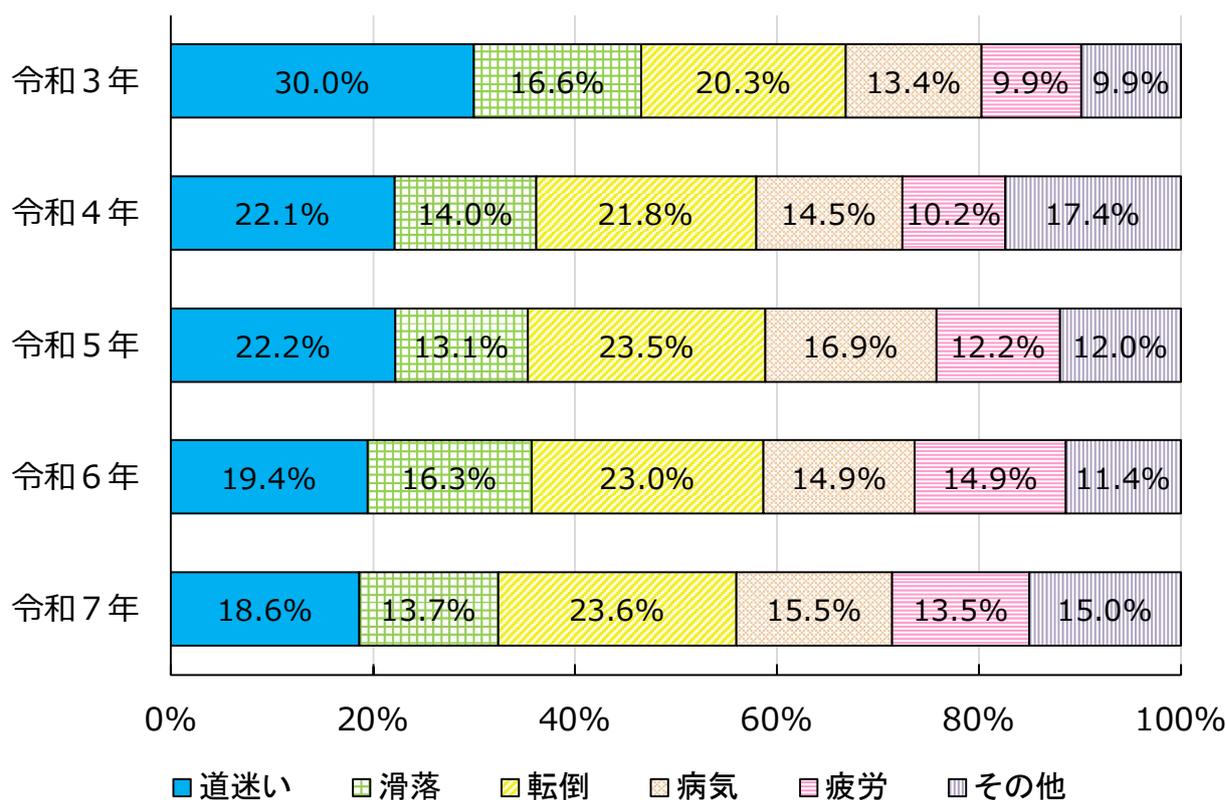


表5 年齢層別山岳遭難者

(夏期)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	28	38	38	42	49	5.3%
20～29	64	73	57	57	85	9.3%
30～39	50	44	63	45	69	7.5%
40～49	81	96	109	83	111	12.1%
50～59	123	161	152	148	190	20.7%
60～69	123	157	181	164	199	21.7%
70～79	109	143	165	166	166	18.1%
80～89	19	25	41	30	45	4.9%
90歳以上		2	3	1		
不明		47			3	0.3%
合計	597	786	809	736	917	100.0%

年齢層別山岳遭難者構成比の推移

